

The logo for IPOC, consisting of the letters 'I', 'P', 'O', and 'C' in a bold, blue, sans-serif font. The letters are slightly overlapping and have a 3D effect with a lighter blue shadow on the right side.

Industrial Property Cooperation Center

一般財団法人 工業所有権協力センター

専門技術者(主席部員)採用

調査業務センター長からのメッセージ

調査業務センター長・専務理事

岩崎 晋



自分の経験・能力が活かせる「場」。
私たちには、その「場」があります。

一般財団法人工業所有権協力センター (IPCC) は、1985年の設立以来、あらゆる技術分野をカバーするプロフェッショナル集団として、特許庁における特許審査に不可欠な先行技術調査や特許出願への分類付与を行ってきました。

特許分類の付与は、毎年数十万件出願される特許情報を調べやすく、また分析しやすくするために必要不可欠な仕事であり、高品質な先行技術調査の源です。私たちは、特許分類付与を行う唯一の登録調査機関として、4,000万件超の実績を積み上げてきました。

私たちが誇る高品質な調査は、この分類付与の経験と、特許庁審査官との日々のやり取りによって鍛え上げられたものであり、その実績は、400万件を超えています。今では、先行技術調査の顧客は特許庁だけではなく、企業や

大学、研究機関、特許事務所等多くの顧客から、特許出願前の調査から他社特許に関する調査まで様々なご依頼を受け付けており、IPCCに対する期待、果たすべき責務は、ますます高まっています。

特許庁における特許審査の品質向上への寄与をはじめとする私たちの貢献は、日本の特許制度を支え、日本の研究開発・イノベーションの創出を支援しています。この私たちの仕事を支えているのは、「人」です。IPCCでは、数百を超える企業や研究機関等において最前線で活躍してきた約1,200名の技術者たちが、その経験・能力を活かして活躍しています。

特許や知的財産に直接かかわったことがない方でも心配は要りません。特許調査のプロフェッショナルとして成長していただくための手厚いサポート体制をご用意しています。また、在宅勤務やフレックス制度、子育てや介護のための時短勤務制度など、多様な働き方に対応した環境整備を推進しています。雇用上限は一応67歳としていますが、健康を維持し、顧客からの評価の高い方であれば、70歳を超えても勤務していただく道も設けており、志高い技術者の皆様が長く活躍できる環境を整えています。

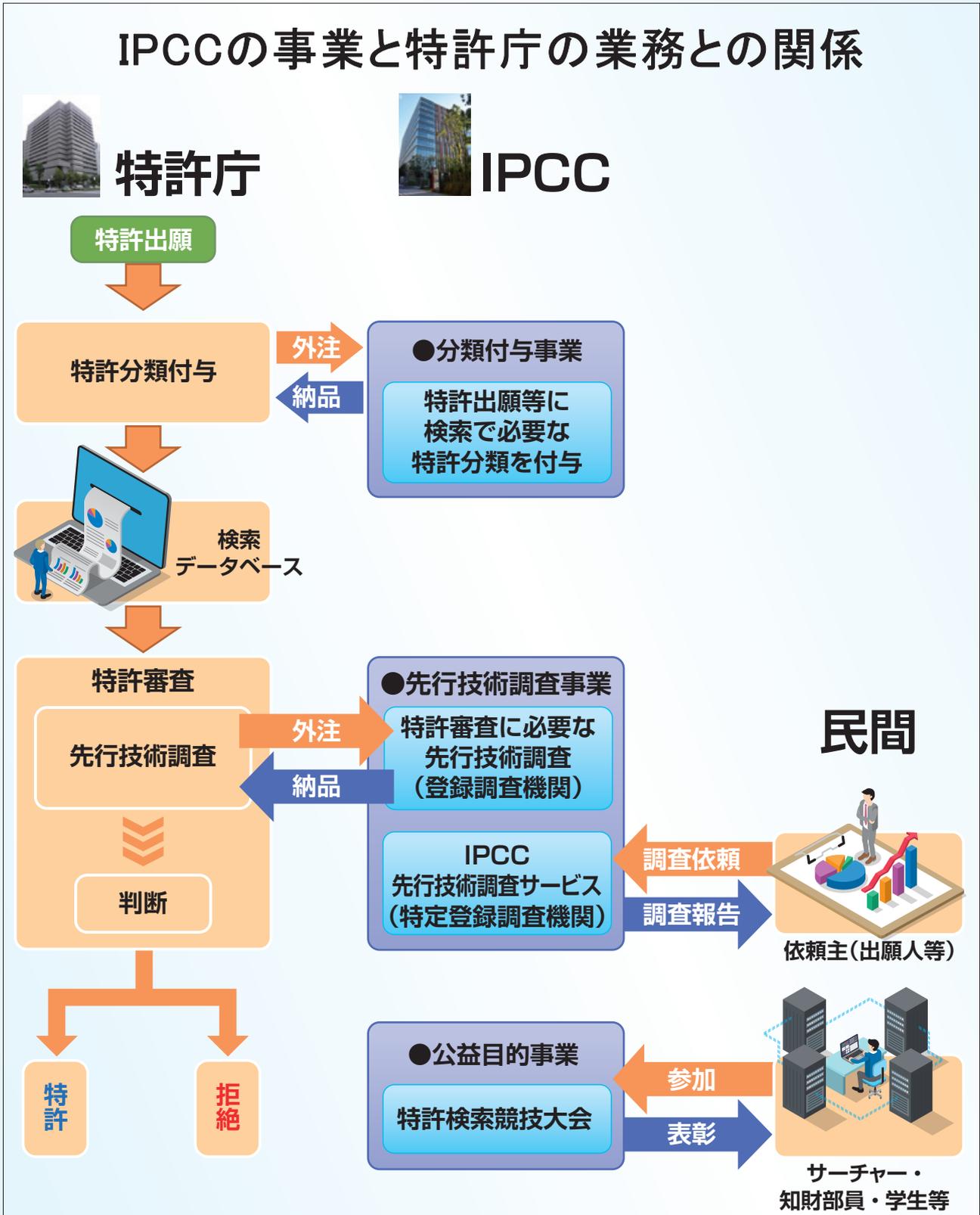
技術者の皆さん、これまでご自身が培われてきた経験・能力を、日本の知的財産立国への貢献という誇り高い仕事に賭けてみませんか？この仕事には、その価値があります。IPCCは、意欲にあふれる技術者を求めています。

目次

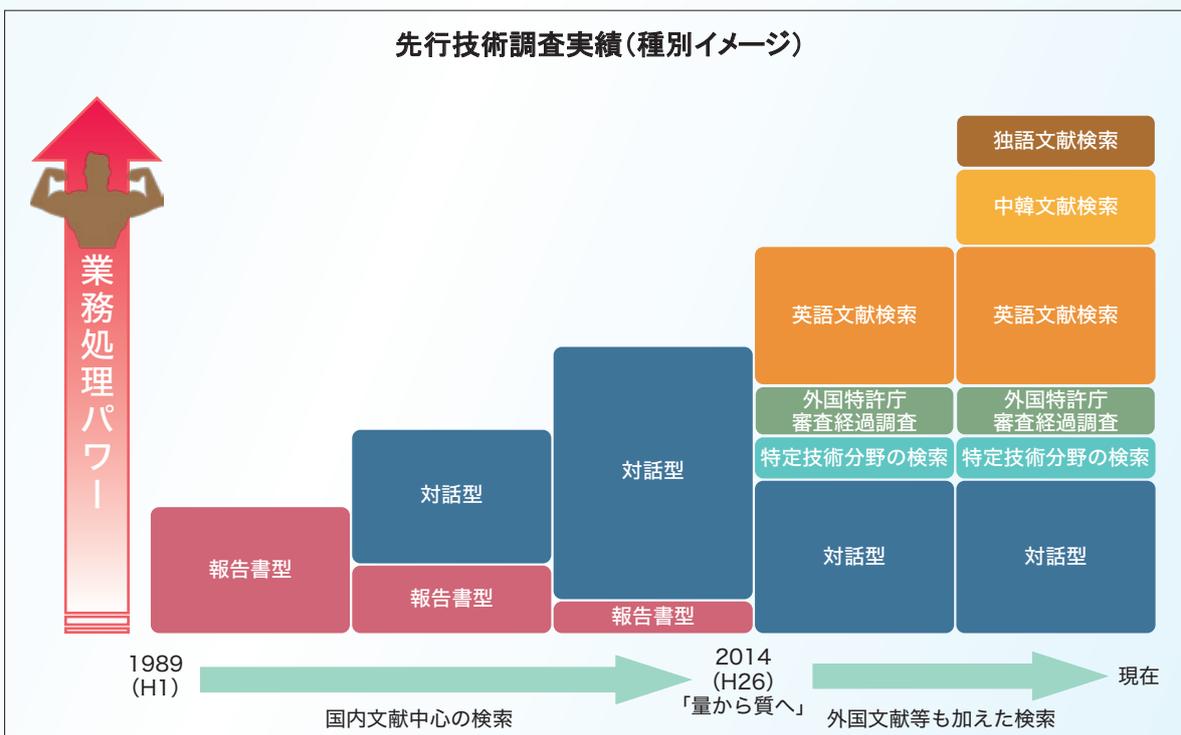
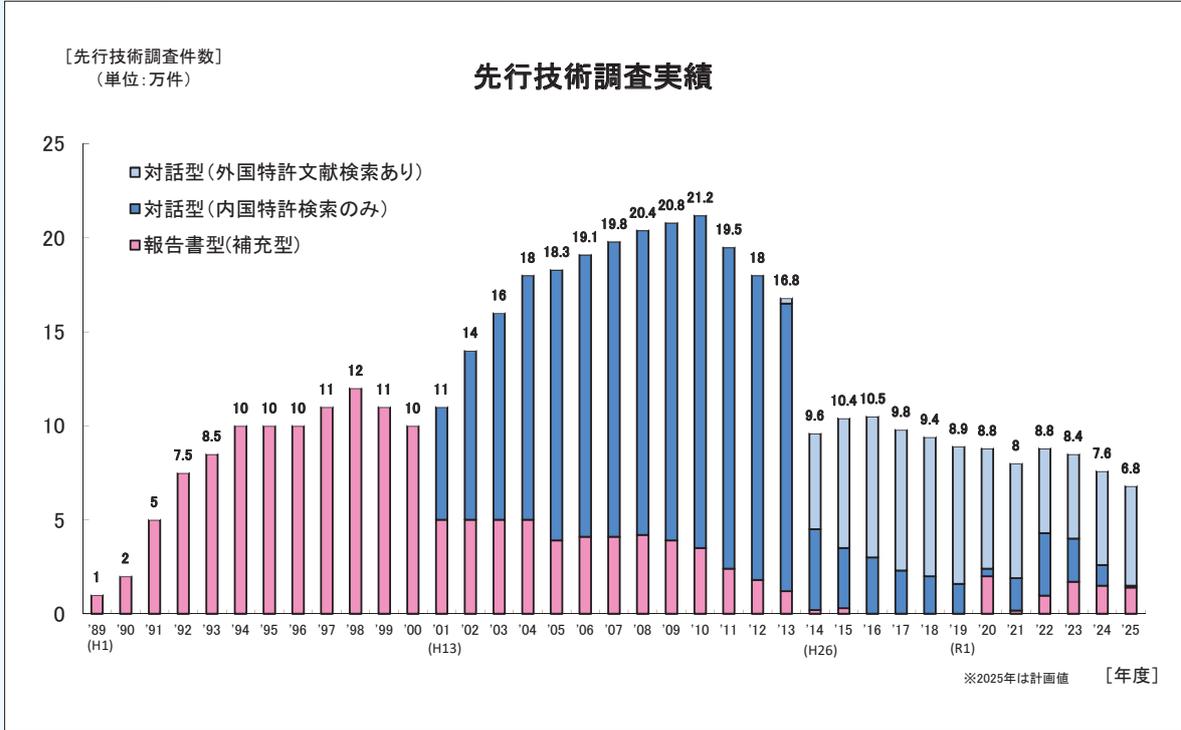
1. IPCC の業務 03
2. 組織 05
3. 人員、主席部員の業務 06
4. 先行技術調査業務の概要 07
5. 魅力を知る..... 08
6. 1日を知る..... 13
7. 先輩を知る..... 14
8. 採用までの流れ 20
9. よくある質問 22

事業内容

■IPCCの主たる事業は、先行技術調査事業、分類付与事業、公益目的事業があります。

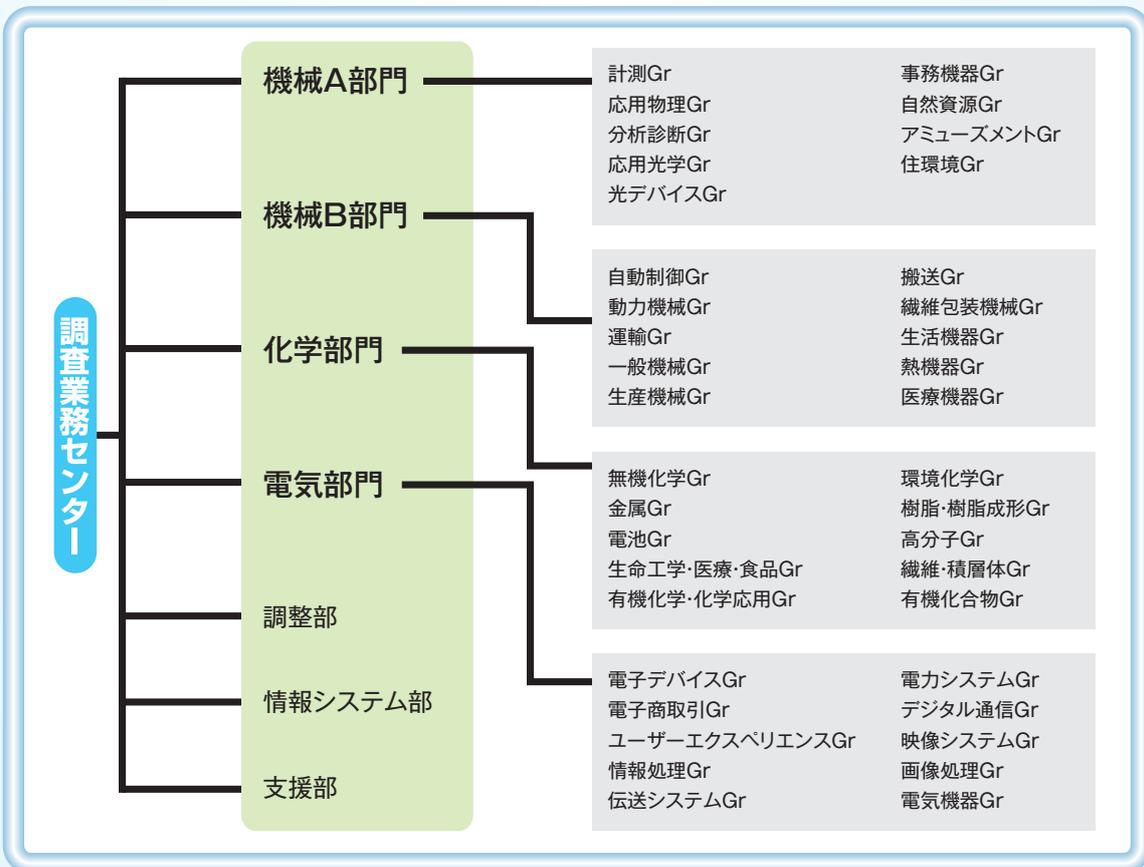
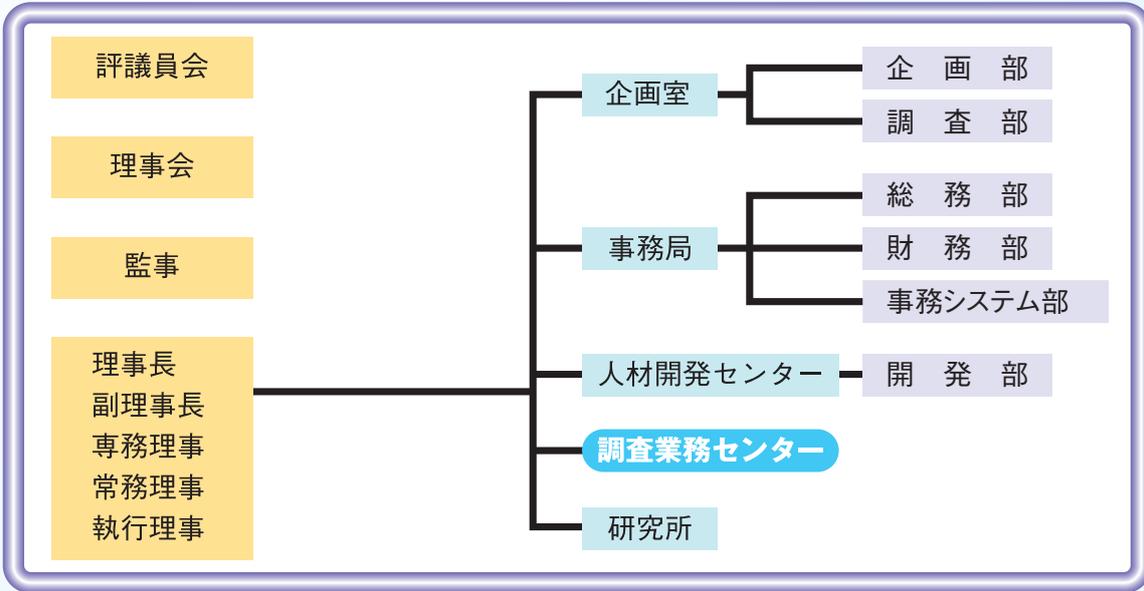


業務実績



組織

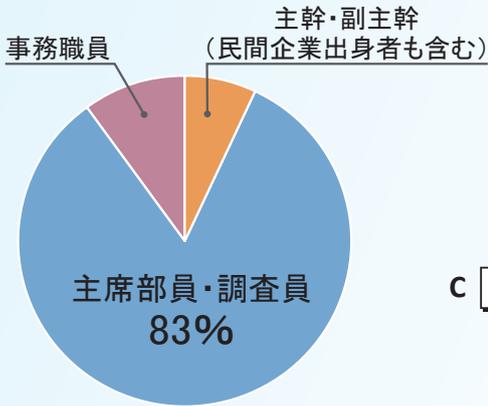
- IPCCは、特許庁と類似する組織構成となっています。
- 調査業務センターでは、39の技術分野ごとのグループに分かれて業務を行っています。



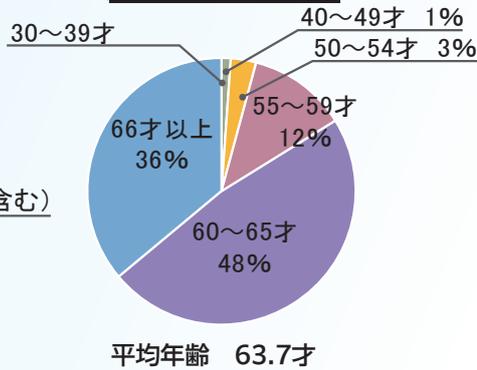


人員

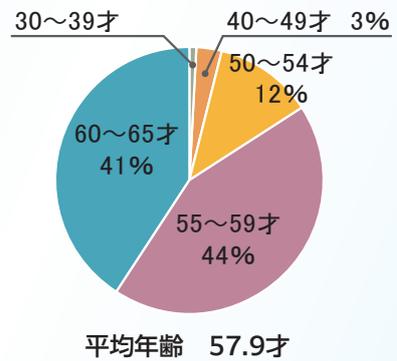
A 職員構成 (2025年1月現在)



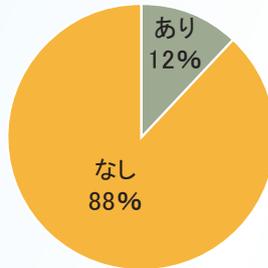
B 主席部員等の年齢



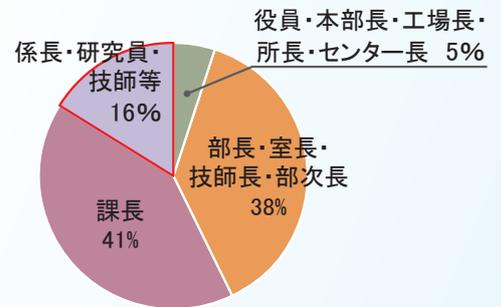
D 採用時の年齢 (過去5年)



C 知的財産関係部署経験の有無



E 役職経験



主席部員の業務

■ 先行技術調査業務が約8~9割、分類付与等の業務が約1~2割の業務量になります。

●特許庁審査官業務の直接支援



先行技術調査

- 国内特許文献サーチ
- 外国特許文献サーチ
- 特定技術分野のサーチ (STN, 3GPP, IEEE 等)
- 外国特許庁での審査経過の調査 (米、欧、中、韓等)

●特許庁審査官 (検索) 業務の環境整備



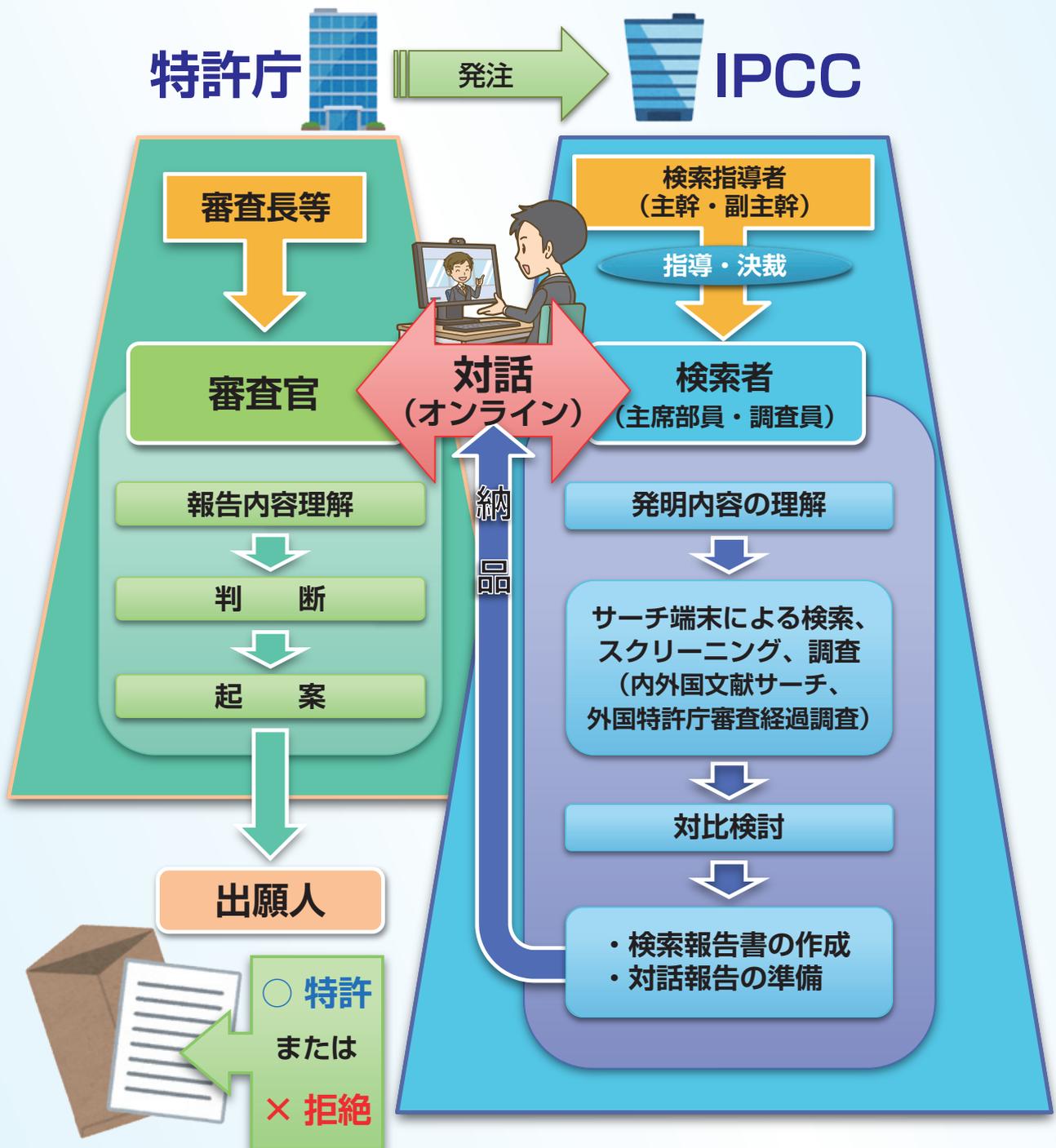
分類付与

- 特許出願に特許分類とFタームを同時付与
- 特許文献 (公開後) への分類の再付与

●出願人等の先行技術調査の支援

先行技術調査業務の概要

- 検索報告は、審査官による特許性の判断のための重要な材料となります。
- 検索報告書は、特許情報プラットフォーム（J-PlatPat）を通じて全ての人に参照可能となります。
- 技術分野等により異なりますが、月に4～10件程度、調査・報告をします。



ワークライフバランスのとれた充実した職場 IPCC

◇ 今までの技術・研究開発の経験を生かすことができる

IPCCでは、今までの企業、大学研究機関等での技術・研究開発又は特許庁、特許事務所、調査会社等での特許調査に関する経験を生かし、新しいことにチャレンジする意欲のある方を歓迎します。

なお、IPCCに入団する主席部員のうち、9割近い人が知的財産関係部署での経験がありません。知的財産関係の知識については、育成研修をはじめ、各種研修を通して、身に付けていただきます。

そして、育成研修修了後はそれらの知識・経験を活用して長く業務を続けていっていただきます。

◇ 70歳を超えても働くことができる

主席部員の平均年齢は63.7歳（2025年1月現在）です。65歳以上の方も数多く活躍しています。IPCCに採用される主席部員は、嘱託員として、まず67歳を上限に雇用します。さらに、業務量の状況にもよりますが、健康面・勤務面等に問題がなく成績良好で働く意欲のある方であれば、70歳を超えても働くことができます。

また、企業からの出向職員としてIPCCに採用された主席部員は、出向元企業を退職した後、一定の条件を満たせば、IPCCの直接雇用になり切り替わります。

なお、嘱託員（3年目）の年収は、約684万円（基本的な業務量を遂行した場合）です。

◇ 社会に大いに貢献する仕事ができる

IPCCの仕事は、直接社会に大きく貢献する業務です。主席部員の行う先行技術調査は、特許権の付与に大きく影響します。ひいては、企業の知財戦略や経営戦略、さらには我が国の産業の発展にも影響するといっても過言ではありません。なお、作成した検索報告書は、特許情報プラットフォーム（J-PlatPat）を通じて、重要な知財情報として全世界からアクセスされることとなります。

◇ 常に最新の技術に接することができる

IPCCでは特許庁に出願された発明の内容を常に見ることになりますので、担当技術分野の最新の技術に接することができます。

◇ 副主幹さらに主幹（管理職）への登用

業務実績や適性等に応じて、副主幹さらには主幹（管理職）への登用制度があります。

◇ 各人の状況に合わせた勤務形態

入団3年目以降になると各人の状況に応じた業務量の増減が可能です。
勤務時間はフレックスタイム制（コアタイム10：00～15：00）を導入しており、習熟された方であれば在宅勤務制度により一部の業務を除き、在宅で行うこともできます。

68歳以降等の方に適用される調査員制度では、勤務日数の選択（月15日、月10日）も可能です。

通勤手当は月額上限100,000円が支給されるため、要件を満たせば新幹線通勤も可能です。
単身赴任手当は、距離に応じて支給（例：大阪、京都、神戸 月額66,500円）されるため、遠方からの単身赴任者も数多く勤務しており、家賃補助は、賃貸借契約を結んでいる方について、月額上限50,000円が支給されます。（ただし、調査員は条件が異なります）

このように、通勤、育児、介護等の各人の状況に合わせた勤務形態・処遇制度になっております。（ただし、出向者は出向規程によります）

◇ 手厚い指導・研修体制

IPCCに採用された主席部員が、特許庁から受注する調査業務を行うためには（独）工業所有権情報・研修館（INPIT）が実施する「調査業務実施者育成研修」（約2カ月間）を修了する必要があります。

IPCCでは上記研修を入団後すぐに受講していただきます。なお、研修中給与も支払われますし、研修受講費用についてもIPCCで負担します。

また、IPCC独自の手厚く充実した研修も実施して育成研修修了をサポートし、財団受講生全員が修了するようにしています。

加えて、主席部員のスキルを向上させる研修等を随時実施し、各人の能力向上を常に図っています。

◇ 全技術分野に対応した業界 No.1 の登録調査機関

IPCCは、1985年に工業所有権に関連する調査を行う機関として我が国で最初に設立されました。
2004年からは登録調査機関（第1号）として全技術分野の調査業務を毎年継続的に行っており、現在も最大のシェアを占めています。そのため、過去の技術経験から最適な技術分野を安定して担当いただけます。

なお、入団後、一定期間経過後に担当可能分野を拡大するため、関連する技術分野の研修への受講を推進しています。

◇ 充実した業務支援体制



業務支援メンバー

IPCCでは、主席部員が様々な業務を円滑におこなっていただけるよう、各部門内に業務支援部員を配置し、納品物チェック、執務環境の整備、業務上必要な技術専門書の購入管理等を行っています。

さらに、パソコン操作に関するヘルプデスクも常時開設しています。

また、新規入団された方が、配属された部門の業務に早期に慣れ親しんでいただくためのサポートも充実しています。

◇ 安全で整備された職場環境



執務室内風景



オンライン対話室

IPCCでは、特許庁の審査官が用いている機器と同様の機器を用いています。また、座席間のパーティションの設置もしています。加えて、IPCC独自の検索報告書作成や、分類付与の業務を効率化するための多数のソフトを利用可能としています。

また、特許庁審査官と対話をするためのオンライン対話室も設置しています。

◇ 安心できる健康管理

IPCCでは産業医が常駐する健康管理室を設置しており、内科一般の健康相談やメンタルヘルス相談を実施しています。また、ご自身が利用する医療機関とのオンライン診療の受診等を行うためのオンライン診療スペースも利用できます。

また、毎年、X線直接撮影、心電図、エコー検査等、約25項目もの定期健康診断及び業務の特殊性を考慮した精密なVDT検査を実施しています。

さらに、オフィス内でヘルスキーパーによるマッサージをいつでも安価に受けられる体制を整えています。

その他、インフルエンザ予防接種費用の補助や財団内での新型コロナウイルス感染予防、感染拡大防止のため、各種対策を実施しています。



健康管理室



マッサージ室

◇ 多種多様なクラブ活動

IPCCでは職員の親睦や心身の健康維持を図るため、数多くのクラブが活動しています。



1. テニス同好会



2. 健歩会



3. 野球同好会



4. 楽走会



5. スキークラブ



6. 太極拳同好会



7. フットサル同好会



8. 山楽会



9. 健康増進くらぶ



10. 卓球同好会



11. 水泳同好会



12. 自転車同好会



13. 楽碁会



14. 将棋倶楽部



15. ブリッジ同好会



16. ダーツクラブ



17. 釣友会



18. パソコン同好会



19. ハムクラブ



20. 楽理会



21. マジッククラブ



22. ものづくり工場見学同好会



23. ソバリエ倶楽部



24. 楽謡会



25. カンナ俳句会



26. 楽書会



27. 遊画会



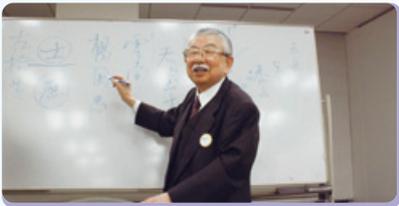
28. 写真倶楽部



29. 吟遊会



30. 陶芸倶楽部



31. 漢詩同好会



32. アタゴスピリッツバンド



33. 合唱団



34. 弦楽アンサンブル



35. 尺八同好会



36. 楽英会



37. 中文同好会



38. ロマンズ語同好会

1日を知る

主席部員Aさんの「ある1日」を見てみましょう◆

◆出勤 9:15～

最寄りの東京メトロ東西線木場駅の1つ手前の門前仲町駅で降りて昼食のお弁当を購入。オフィスまで健康維持のため、歩いて出勤します。



◆文献検索・精読 9:20～

検索案件の精読と検索を行います。

文献の読み込みには集中力が必要です。周りの席の人たちも集中して取り組んでいるため、とても静かな環境で仕事を進められます。

検索業務の合間に、分類付与を行う事もあります。



◆お昼休み (60分) 12:00～

出勤時に購入したお弁当でランチタイム。新鮮なお魚をメインとしたお弁当で、午後の仕事にも力が入ります。(オフィス内でも栄養バランスの取れたおいしいお弁当が販売されています。)



◆特許庁とのオンライン対話 13:00～

審査官への報告は、相手が理解しているか確認しながら、本願と引用文献の対比ポイントを要領よく説明するように心掛けています。

対話では、審査官との信頼関係がとても重要です。



◆ラジオ体操 15:00～

定時に館内放送で流れるラジオ体操で心身ともにリフレッシュしています。



◆文献検索・精読・指導 15:10～

案件毎に納品目安日が設定されており、スケジュール管理はとても重要です。そこで疑問点等がある場合には、主幹に相談して早めに解決するようにします。



◆同好会活動 18:00～

夕方からは同好会の仲間と楽しく太極拳。

中国伝統武術を身につけ、いつまでも若い身体と頭脳を維持するよう努めています。



新たな分野への挑戦とワークライフバランス充実



機械B部門 生活機器グループ

佐々尾 卓

(2015年10月入団／電気メーカー出身)

新たな分野へのチャレンジ

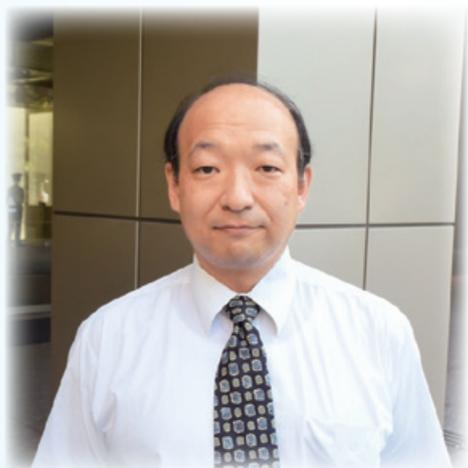
IPCCへの転職を考える際、前職の映像関係の専門を直接生かせる分野は見当たりませんでした。IPCCはチャレンジ精神のある応募者にも広く門戸を開いていて、前職での知識も活かせる生活機器グループを紹介してもらい、無事入団することができました。新たな分野での調査業務は、いろいろと苦労もありましたが、他方で、日々新たな技術に触れて知的好奇心をくすぐられる日々はとても刺激的であるとともに、知識の拡がりを通じて成長を感じることができました。そのようにして年月を重ねるうちに、いつの間にかベテラン主席部員の一員となっていました。

ワークライフバランスの充実

仕事の面では、IPCCで最年長の主席部員となることを目標に頑張っています。そのため、新たな分野に挑戦するとともに、品質面でも劣ることがないようにして、グループへの貢献に努めています。また、プライベートでは、週末や終業後に、テニスで汗を流すとともに、その後の懇親会でテニス同好会の会員との交流を深めています。プライベートが充実することで、仕事にもより前向きに取り組んでいます。仕事とプライベートとの切り替えがコントロールし易いIPCCの環境は素晴らしいと感じています。人生を長く満喫するための職場として、私はIPCCへ入団してよかったと思っています。



前職での知識経験が活かせる実務でさらに能力アップ



機械B部門 医療機器グループ

矢澤 克美

(2015年10月入団／大学研究機関出身)

30～40代からの転職活動

IPCCでは、大学や研究機関での知識・経験に基づいて、年齢の問題は無く採用されました。専門としていたバイオ技術の分野ではなく医療機器分野での採用となり、最初は戸惑いでしたが、特許文献は基本的には論理的に記載されているので、毎日のように読んでいると確実に経験値が増えます。上司や同僚は、特許法の知識や機器開発の経験豊富な方ばかりなので、もし分からない技術があっても快く教えてもらえます。

研究職出身で生かせる経験

大学・研究所の発表では、研究テーマの動機付け・実験手法・結果・考察といった流れで論理的にかつ分かり易く他人に伝えることが必要ですが、特許庁の審査官に文献を説明する際に、この経験は大いに役立っています。また、審査官の質問の中身を理解し、適切に回答するのも、学会発表における質疑応答の経験が役立つと思います。



IPCCの魅力

こんな技術があるのではないかと予想を立てて調査を行い、想定した通りの文献、あるいはそれ以上の文献が見つかった時は達成感があります。また、転職も無く、70代まで勤められるのも魅力と言えます。検索業務は、高い集中力を必要とするので大変ではあるのですが、30代、40代の研究者の新たな挑戦先としては、IPCCは魅力的な職場ではないかと思います。

長期にわたる勤務と充実したライフワークを



機械B部門 医療機器グループ

石田 正夫

(2009年4月入団／繊維会社出身)

入団の経緯

前職では、先進的な技術開発・商品開発を夢見て仕事していました。特許関係の仕事の経験はありませんでしたが、前社に勧められIPCCを知りました。そこで思ったことは、以下の3点です。

- ①先行技術調査および特許分類には自身の専門分野の経験・知識が活かせる。
- ②特許法を運用にかかわる社会に貢献できる責任ある仕事であり、誇りが持てる。
- ③審査経緯の一部として自身の検索報告書が世界中に公開される。“自身の仕事の証”を世に残せるようでありがたい。

調査は地味な仕事ではありますが、定年後まで自身の経験・知識が活かせ、誇りをもって仕事ができることは幸せです。

長く IPCC で勤務することでのメリット

2009年に当時48歳で入団、IPCC内の手厚い研修、諸先輩の優しいご助言のもと、研修も無事修了し（若いほど楽かもしれません）仕事も徐々に覚え、その後十数年、地道に一生懸命に仕事に打ち込んできましたところ、「副主幹」登用の話をいただき現在に至ります。定年後の仕事でも昇進があるのがIPCCです。



同好会活動等で充実したライフワーク

入団後しばらくして、テニス同好会に入会しました。仕事はデスクワーク中心、リフレッシュが必要だと思います。程よく体を動かし、プレーの合間に仲間と無駄話するのが楽しいです。週末は大好きなテニスでリフレッシュ、ウィークデーは一生懸命に仕事といったメリハリができます。同好会活動のせいかどうか（体質もあるでしょうが）、入団以来、特に怪我も病気もなく、学生時代と変わらぬ体形を維持しています。

IPCCには40近い同好会がありますので、好きなことを見つけ、仲間をつくることができます。また、退団後もOB会員として継続し、生涯の仲間と楽しむことができます。

副主幹として「良き理解者」を目指します



機械B部門 繊維包装機械グループ

小俣 隆

(2014年4月入団／半導体メーカー出身)

審査官と出願人、両方の立場で

検索業務は審査官の立場と出願人の立場の両方を考えて行います。入団前は出願人の立場でしたので、出願人が拒絶理由をもらった際に納得してもらえような文献を審査官に提示するようにしています。自分で抽出した文献が実際の拒絶理由通知書や特許査定に使用されるので、責任は重大ですが産業界に非常に貢献できる仕事だと自負しています。

至れり尽くせりの勤務環境

多くの主席部員は第二の職場としてIPCCに入団します。みな人間的な経験も豊富で、執務室も新しく広いので、非常に明るい職場です。IPCCには独自の検索ツールがあり、優秀なスタッフがPCやツールの使用方法を丁寧にサポートしてくれます。検索ツールの活用法についても講習会が開催されており、至れり尽くせりの環境です。

習熟の近道は「どれだけ周囲の人に聞けるか」

今後はより多くの新人を採用し、グループ全体で高品質で効率のよい検索業務ができるようにしていきたいです。業務習熟への一番の近道は「どれだけ周囲の人に聞けるか」だと思います。自分自身がたくさん助けられたように、指導というよりは「良き理解者」として周囲の主席部員に接していきたいです。



業務に全力を向けられる環境です



電気部門 ユーザーエクスペリエンスグループ

小田原 都子

(2015年7月入団／総合電機メーカー出身)

調査業務をするなら IPCC

調査業務をするならIPCCがベストだと思います。登録調査機関の中で一番大きな組織ですし、同じ技術区分の人がたくさんいるので、さまざまな情報交換ができます。独自の検索ツールやオンライン対話専用ルーム、優秀な業務支援スタッフなど、すべてが整っているので業務以外のストレスがありません。業務に全力を向けられます。

ほどよい距離感、良いリフレッシュ

所属グループ内では若手の主席部員同士でランチ会を定期的に行っています。審査官の情報を共有したり担当する案件について相談したりして、いい距離感を保っています。また、月1回の女子会があり、異なる分野の女性主席部員同士がリフレッシュの場として非常に有効に活用しています。



柔軟性と謙虚な姿勢を大切に

調査業務には、人生後半における「自分のあり方」を整えてくれる側面があると思います。集中するためには頭のスイッチをうまく切り替えなければなりませんし、長くこの仕事を続けるためには健康にも気を使うようになります。計画的に仕事を進めるためには、問題を早めに判断し、ときには周囲に頼ることも重要です。審査官との対話を通じて、相手の考えを汲み取る柔軟性、評価を受ける側としての謙虚な姿勢が大切だと身に沁みて感じるようになりました。

主席部員から副主幹・主幹へ



機械A部門 分析診断グループ

菊池 良彦

(2008年7月入団 / 精密機器メーカー出身)

41歳で入団して

前職のメーカーで特許の仕事に興味を惹かれたことがきっかけで、入団しました。入団当時、周囲の先輩方に比べて比較的若く、経験も浅かったこともあり、経験豊富な先輩方にとっても親身に世話を焼いてもらい、自分の成長をアシストしていただきました。また、仕事では特許庁の審査官がカウンターパートとなりますが、同世代の方が比較的多く、話が合い仕事が進めやすい面もありました。十数年にわたりIPCCで仕事を続けていますが、知財業界が世の中の動きとともに目まぐるしく変化するのを実感してきました。この間、技術のみならず、仕事の進め方や職場の雰囲気も時代とともに変わりましたが、少しでも早いうちから新しいことに挑戦したことは結果的に良かったですし、常にチャレンジができる環境は、自分にとってやりがいのある職場だと感じています。

主席部員からステップアップ

主席部員を約8年経験して管理職登用の話がありました。検索業務が性に合っていたので、管理職になるのは悩みました。しかし、一般企業の管理職とは異なり、「主席部員のサポート役」であるIPCCの管理職は、自分に向いているのではないかと考え直して副主幹となりました。

現在は、主幹として、引き続き主席部員のサポートをしながら、主席部員にとって働きやすい職場を目指して仕事に取り組んでいます。

知財挑戦者には働きやすい

知財が好きで、文章や法律に抵抗がなければ、知財に挑戦しやすい仕事だと思います。IPCCでは法定研修の修了に向けて、入団前から手厚いサポートがあるため、安心感があります。また業務に慣れてきたら、別の技術区分の資格取得もできるので、意欲次第で新たな技術分野への挑戦も可能です。待遇面では、給与体系に透明性があり、業務量の選択もできます。専門的なスキルを身につけて、多くの業務量をこなせるようになれば、それに応じて収入を増やすことができるのも魅力だと思います。



採用までの流れ

どなたでも直接応募可能です。
会社等の推薦や紹介等は特に必要ありません。

応募 (事前相談も可)

※既に調査業務実施者の資格を所持している方も応募可能です。

- 応募フォーム(ホームページ参照)から申し込み(随時受付)

書類審査

- ◆資格要件(学歴、科学技術経験年数)のチェック
- ◆技術的経歴等のチェック(募集技術分野とのマッチング)

一般面接 (WEB)

- ◆これまでの技術経験や、志望動機等についてお話を聞かせていただきます。

技術面接 (WEB)

- 応募者が担当予定技術分野の特許公報(ホームページの募集技術分野一覧参照)に記載の発明内容について説明
- ・技術的理解力(発明のポイント把握能力も含む)の評価
- ・説明能力の評価
- ・コミュニケーション能力の評価
- ◆英語文献読解力の確認

サーチ結果報告面接と役員面接 (対面) ※原則同日に実施

【サーチ結果報告面接】

- 上記特許公報について先行技術調査の結果の説明(主席部員業務の体験)
- ・業務への適性確認

【役員面接】

- IPCCでの業務の認識度、意欲の確認等

採用内定 → 入団

- ・入団時期は原則4月、7月、10月、1月です。 ※採用内定は遅くとも入団日の1ヶ月前までに決定

約1週間後

約1~2週間後

約2~4週間後



memo

A large, empty rectangular area with rounded corners, outlined in blue, intended for writing a memo.

良くある質問

Q 入団希望時期の何か月前までに応募すれば良いですか

応募から内定まで2～3か月程度の期間を要しますので、できる限り入団希望時期の約4か月前までにご応募ください。(例：入団希望が7月であれば、同年2月下旬まで)

※既に育成研修の技術区分を修了済みの方や特許庁審査官経験者の方はこの限りではありません。

Q 実務能力を確認する面接で注目されるポイントはどのような点ですか

技術理解力、説明能力、コミュニケーション能力です。

Q 知財経験がないので、育成研修を無事に修了できるのか不安です

IPCCでは、豊富なサポート経験に基づいて構築した手厚い指導体制によりサポートしますので、知財経験がなくても心配無用です。

Q 主にシニア世代を採用しているようですが、ミドル世代でも採用されますか

シニア世代に限らずミドル世代も積極的に採用しています。日々の業務を通じて専門性を磨き、自己の成長を長期的に図ることができますので、ミドル世代の専門技術者にとってもやりがいのある仕事です。さらに、管理職(主幹・副主幹)に登用される道もあります。

Q 研究機関の研究者です。専門技術者として活躍できますか

専門技術者は自身の専門知識をベースに、色々な案件について調査を進めながら、日々新たな知識を吸収し、対応できる範囲を拡大して業務を進めています。基本となる専門技術知識と前向きな意欲があれば、十分活躍できます。

※その他のよくある質問は、
ホームページまたはQRコードからもご覧いただけます。→



さーち子さん*

◆ お問い合わせ先 ◆

一般財団法人 工業所有権協力センター (IPCC)

人材開発センター 開発部 採用課

ホームページ： <https://www.ipcc.or.jp>

TEL：03-6665-7852 FAX：03-6665-7886

E-mail： ipcc-jin@ipcc.or.jp



つけつけ君*

募集に関する詳細は、HPまたは、QRコードからもご覧いただけます。→



※IPCC業務システムのキャラクター

IPOC

Industrial Property Cooperation Center

一般財団法人 工業所有権協力センター

■ アクセス



東京メトロ東西線「木場駅」4番出口から徒歩約5分
〒135-0042

東京都江東区木場1-2-15 深川ギャザリア ウエスト3棟